



乃木小だより

～ かしこく つよく やさしい子 ～

「顔晴れ」＝ 声出せ 汗出せ 知恵を出せ ＝

～ まつえ湖南学園～
松江市立乃木小学校
令和6年10月21日
(文責) 校長 野津

～ 応援する ～

私事で恐縮ですが、先日「出雲駅伝(出雲全日本大学選抜駅伝競走)」を見に行きました。地元出身の選手も含め、各大学から選ばれたランナーたちの走る姿は実に爽快でした。そして、それにも増して印象深かったのは、出雲大社神門通りで陣取った各大学の応援団の姿でした。いわゆる学ラン姿の「応援団長」や、チアリーダー、吹奏楽団などが割り当てられた指定のエリアで、母校の選手に届けとばかりに懸命に応援する姿に心を打たれました。それぞれの大学が、それぞれのやり方で沿道一般の人々を巻き込み、声を出し、音を出し、ただひたすら一心不乱に動き続けるその光景は圧巻でした。正直、選手よりもむしろ応援団を応援したい気持ちになりました。

そういえば、1学期に行った校内運動会での各色の応援合戦もたいへん見ごたえのある熱いものでしたね。そして、先日「連合音楽会」に出演する4年生の壮行演奏会では、大勢の他の学年から、称賛と励ましの大きな拍手が贈られました。乃木小の応援も見事です。

また、今年の夏は、甲子園における大社高校の応援が全国で話題となりました。このほど開幕したBリーグのスサノオマジックのブースターによる声援も、毎回、得も言われぬ素晴らしさと評判です。

「応援する」というのは、応援される側だけでなく、応援している人自身、そしてそばにいる人たちにもパワーを送り、明るく元気にし、勇気や笑顔を与えてくれるのだとつくづく感じました。乃木小学校も生活の様々な場面で、お互い思いを込めて心の底から応援し合える、そんな学校でありたいと思っています。



＝ この一行に逢いにきた ＝

10月27日から全国読書週間が始まります。今年の全国読書週間の標語は、「この一行に逢いにきた」だそうです。確かに本を読んでいると心に響くグッと突き刺さる言葉や文章に巡り合うことがありますね。先般、メディアコントロールウィークにあわせ、「家族ふれあい読書」にたくさんの方にご協力いただきました。ありがとうございました。

以前にも少し触れましたが、本校では、こどもたちのより良い読書習慣の定着をねらいとして、様々な角度から図書館活用教育の取組を進めています。しかし、こどもたち自身の意識としてはあまり積極的ではなく、控えめな印象がうかがえます。学力の面から読解力に視点を移すと、最近、「長文を読み込むことが苦手」という面も見られます。SNS等で、ショート動画や細切れな語彙に触れることに慣れてしまい、「タイパ」という言葉に代表されるように、時間をかけて長い文脈から想像力を働かせる機会が減ってきているのかもしれません。

同時に、「大人の読書離れ」という報道も耳にするようになってきました。スマートフォン・タブレット等のICT機器から情報を得ることも普通になった社会構造の変化も影響していると思われます。特に、自分の仕事に直接的には関係が薄いと思われる書物には、「忙しくてなかなか読書のための時間を作る余裕がない」という事情も否定できません。

読書の秋です。ぜひ「家族ふれあい読書」の流れを継続し、この機会にみんなが学校や書店で幅広く本に親しみ、文字や活字に触れることで、たくさんの素敵な出会いをしてほしいと思っています。保護者の皆さま、別途、本校図書館部より発行しております「ドリームとしゃかんだより」も、ぜひ参考にしてください。



= 教育実習を終えて =

このほど3名の学生さんが本校で4週間の教育実習を終えました。実習生の皆さんは、緊張感や不安感を抱きながらも、笑顔で、謙虚に、こどもたちや職員と積極的に関わりながら、一生懸命に過ごしていました。休み時間には体当たりでこどもたちと触れ合い、教科の学習指導では教壇から思いを込めて語りかけ、全力で授業を進めていました。こうした実習生さんの前向きな姿勢が、こどもたちにとっても意義深く、有益でした。教員不足・教員志願者の減少傾向が社会問題となっているなか、高い志をもって頑張る姿は、とても頼もしく映りました。私たち教職員にとっても、初心に帰って教師としての在り方を見つめ直す機会となりました。乃木小で教育実習を終えた3人の益々の飛躍を願い、最大級のエールを送ります。



《実習生さんの感想より》

短い間でしたが、自分が想像していた以上に楽しく、充実した1か月でした。1回1回の授業に対する先生方の思いや工夫、指導などを細かいところまで学び、自分の授業で実践することができました。改めて自分の未熟さを実感する1か月でしたが、自分の中で教師という職業が「憧れ」から「目標」に変わりました。これからは目標を達成するために、今まで以上に努力していきます。本当にありがとうございました。

短い期間でしたが、毎日がドラマの連続のような非常に充実した日々でした。みんな明るく活発で、友だちどうし自然と声をかけ合える素敵なこどもたちばかりでした。私はこの実習を通して、こどもたちと一緒に授業を創っていくことの楽しさに気づきました。授業への不安も緊張も吹き飛ばすほどのこどもたちの笑顔をこれからもきっと忘れません。「もっとこの子たちと一緒にいたい」と思うばかりですが、この実習を経て、より一層小学校教諭になるという思いが強くなりました。本当にお世話になりました。

私は、児童の様子を間近に触れ、たくさんの行事から日常生活の細部に至るまで先生方だけでなく、児童が主軸となって様々なことに打ち込む姿を何度も見るすることができました。異学年交流が盛んに取り入れられ、低学年は高学年を見て育ち、また高学年は低学年を引っ張っていく立場として育ち、学年の垣根を超えた素敵な姿がありました。県内一の大規模校ならではの学校施設や学校規則、教職員体制など貴重な経験を経て学びを深めることができました。この実習を機に、今一度大学で勉学に励みたいと思います。長いようで短かった1か月間でしたが、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

= 「こども」の表記に関わって =

昨年発足したこども家庭庁では、全てのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して制定された「こども基本法」の理念を踏まえ、平仮名表記の「こども」の使用を推奨しています。こども基本法では、「心と身体の成長の段階である人」をこどもとしています。これを受けて、松江市においても、特別な場合を除き、「子供」や「子ども」の表記ではなく、平仮名表記の「こども」を用いています。市教委の方針を受け、今後、学校におきましても基本的には、平仮名表記の「こども」を用いることとします。

子育ては家庭を基本としながらも、学校はもちろん、こどもをとりまくいろいろな人々が関わって様々な支援が一人一人に行われています。学校で働いておられますと、PTAや地域のボランティアの皆さまはもとより、実に多くの関係機関の方々が直接的・間接的にこどもたちの育ちに力を与えてくださっていることを実感します。社会全体で、様々な立場から将来を担うこどもたちの健全育成を支えている現状とその重要性を再認識しているところです。

2学期も半ばを迎え、学習面、生活面、こどもたちもたくさんの経験を積みながら成長しつつあります。日々の生活のなかでは、良いこともあれば、気になる問題行動を改善していかなければならないことも当然出てきます。改めて地域や保護者の皆さま、関係各所と手を取り合って、多角的・多面的に一人一人のこどもたちを温かく支え、応援していきたいと思っています。

